

# シカの糞から 新種のきのこを発見！！

千葉県立中央博物館 きのこと担当 吹春俊光（環境教育研究科）

## ●発見の経緯は？

- 1) 2011年9月、菌類を研究する学会である日本菌学会が、菌類の観察会を北海道で実施した際、苫小牧市内（支笏湖付近）の林で、エゾシカの糞から発生していた小型のきのこが、参加者によって採集されました。
- 2) 糞から発生したきのこ（糞生菌類）を糞とともに、千葉県立中央博物館にもちかえり、千葉大学などと共同で調べたところ、新種であることが明らかになりました。
- 3) 今回の新種とされたきのこは、今年2015年1月28日の学術誌の電子版（Mycoscience マイコサイエンス、エルゼビア社）で公表されました。

※文献：Fukiharu, T., K. Shimizu, A. Nakajima, T. Miyamoto, J. K. Raut, N. Kinjo., *Coprinopsis igarashii* sp. nov., a coprophilous agaric fungus from Hokkaido, northern Japan, Mycoscience (2015), <http://dx.doi.org/10.1016/j.myc.2014.12.005>.

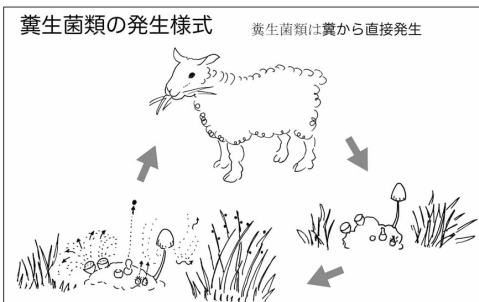
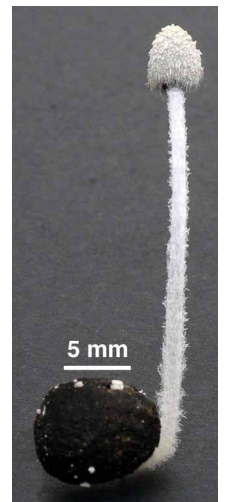


直径1 cm程度のエゾシカの糞から直接発生する小型のきのこです

## ●新種のきのこ名の意味は？

- 1) 世界共通の名前である学名を *Coprinopsis igarashii* Fukiharu & Shimizu と名付けました。コプリノプシス・イガラシイ、と読みます。担子菌類、ハラタケ目、ナヨタケ科に属します。“ヒメヒトヨタケ属 *Coprinopsis*”とは“*Coprinus* ヒトヨタケ属”のきのこに類似する、という意味です。ともにギリシャ語の“Kopros 糞”に由来し、動物の糞から発生することが多いことを示しています。
- 2) 学名の種小名“*igarashii*”の由来  
2011年の日本菌学会採集会の大会長であった、五十嵐恒夫（いがらしつねお、北海道大学名誉教授）先生にちなんだものです。
- 3) 和名は「ウシグソコナヒトヨタケ」としました。在野の研究者である青木実さんという方が、京都でウシの糞から発生したきのこを、1981年に日本きのこ同好会の会報に未知種ということで掲載していました。比較した結果、今回のものと同種であることがわかり、青木さんの和名を採用したのです。

※文献：青木実（1981）ウシグソコナヒトヨタケ。日本きのこ同好会会報 1121: 1-4.

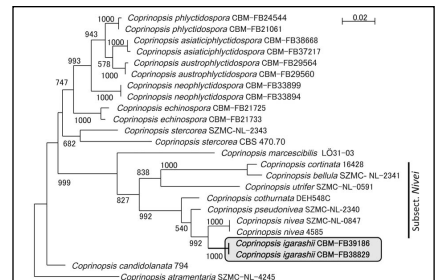


## ●糞生菌類とは？

動物が食べる草などに菌類の胞子が付着し、草とともに胞子が食べられます。動物の消化管をとることで発芽促進され、糞と一緒に胞子が体外に出て、いちはやく成長を開始し、栄養満点の糞という資源を独占するようにして暮らす菌類のことを糞生菌類とよびます。ウマやシカなど草食獣の糞からよく発生し、動物園の動物の糞よりも、野生の糞からの方が、珍しい菌類が見つかります。

## ●新種の特徴は？ 役にたつの？

- 1) 糞生菌類は地球規模で広域に分布するものが多く「ユーラシア」や「熱帯・亜熱帯」という具合に分布します。分類学の先進国である欧州で、多くの糞生菌類の種類が記載・研究されており、欧州と日本との共通種も多いのですが、今回のものは欧州でもみつかっていなかったものでした。また、今回のものは、今のところ北海道と京都からしか採集されていませんが、糞生菌類は広域に分布する傾向があるので、千葉県からも採集される可能性は十分にあります。
- 2) 糞という、負のイメージのものから発見されたものですが、将来的には、糞などの廃棄物処理にも役に立つかもしれませんね。



DNA の検討結果からも新種であることが確かめられました

新種の元になった標本は、千葉県立中央博物館の標本庫に **CBM-FB-39186** の番号で保存されています。CBMは植物系の標本庫の世界的な登録略称で、当館をあらわし、FBは「担子菌類」を示します。新種の標本は世界に一つしかなく**正基準標本**（Holotype ホロタイプ）とよばれ、まさに「国の宝」といえるでしょう。当館からの情報発信の他に、将来的には日本が世界に発信する生物多様性情報として GBIF（地球規模生物多様性情報機構）などのデータベースにも登録していく予定です。中央博の標本群は日本の生物多様性に関する貴重な情報の発信源となっており、特に生物の名前の基準となったタイプ標本群は、世界的に貴重なもので、千葉県の宝といえます。